

令和3年2月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、北日本付近を低気圧や前線が通過することが多く、低気圧の通過後には北日本を中心に冬型の気圧配置の強まる時期があったため、北日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多くなりました。日照時間は北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側で少なくなりました。降水量は、北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側で多くなりました。また、1日に前線の通過に伴い九州北部地方で大雨となった所もあったため、西日本日本海側でも多くなりました。一方、東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美では、大陸から張り出す高気圧に覆われやすかったため晴れる日が多くなりました。日照時間はかなり多く、特に、西日本及び沖縄・奄美では、平年比で1961年の統計開始以来1位の多照となりました。平均気温は、暖かい空気に覆われやすかったため、東日本及び西日本と沖縄・奄美ではかなり高くなりましたが、冬型の気圧配置が強まり寒気の影響を受けた時期もあった北日本では平年並でした。

中旬は、北日本では低気圧の影響を受けやすく曇りや雪または雨の日が多くなりました。特に15日から16日にかけて、本州南岸の低気圧が急速に発達しながら北東進し、北海道付近で946hPaまで発達した影響で、15日には静岡県天城山で日降水量が227.5mmと2月の記録を更新したほか、16日には多くの地点で日最大瞬間風速の月記録を更新するなど、北日本及び東日本を中心に広い範囲で大荒れとなりました。また、低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置が強まり、北・東・西日本日本海側で大雪となった所がありました。沖縄・奄美では、11日に低気圧の影響で大雨となった所がありました。このため、降水量は北日本及び東日本日本海側でかなり多く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で多くなりました。一方、東日本以西では、高気圧に覆われて晴れる日が多かったため、日照時間は、東・西日本日本海側でかなり多く、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美で多くなりました。平均気温は、移動性高気圧に覆われた時期があったことや低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本及び東日本でかなり高く、西日本で高くなりました。

下旬は、北日本では、冬型の気圧配置となり寒気の影響を受けた時期がありましたが、全国的に高気圧に覆われやすく、東日本を中心に晴れの日が多くなった一方、東日本以西では寒気の影響を受けにくくなりました。沖縄・奄美では、26日に低気圧や前線の影響でまとまった雨となった所がありました。このため、降水量は、沖縄・奄美で多くなりましたが、東日本ではかなり少なく、北日本太平洋側と西日本日本海側で少なくなりました。特に、降水量の平年比では東日本太平洋側で1961年の統計開始以来1位、東日本日本海側で1位タイの少雨となりました。また、日照時間は、西日本日本海側では平年比で1961年の統計開始以来1位の多照となるなど、東日本と西日本日本海側でかなり多く、北・西日本太平洋側と沖縄・奄美で多くなりました。平均気温は、高気圧に覆われやすく、北日本付近を通過した低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ時期もあったため、西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高くなりました。

【2月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7日目平均)は、例年値^(注)よりも8ポイント高い81%でした。地方別の適中率では、九州南部地方を除く各地方で例年値を上回りました。

最高気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.1℃小さい2.2℃で、北海道、関東甲信、東海、近畿、中国、四国、九州南部、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7日目平均)は、全国平均で例年値よりも0.2℃小さい1.9℃で、北海道、東北、関東甲信、近畿、四国、九州北部の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4 月は、短い周期で低気圧が通って、天気が変わることの多い時期です。暖かい日が多くなる一方で、低気圧の通過後に冷たい空気が流れ込んで前日より気温が大きく下がることもあります。寒暖の差が大きい時期ですので、週間天気予報で気温変化を把握し、健康管理や農作物の管理等にお役立てください。